

平成 21 年 6 月 11 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2007 年度～2008 年度

課題番号：19820006

研究課題名（和文） 中世朝廷社会における官司制度と政務運営システム

研究課題名（英文） Bureaucracy and state management system in court society in the Middle Ages

研究代表者

遠藤珠紀（Endo Tamaki）

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：10431800

研究成果の概要：

本研究課題は、朝廷官司の構造およびその変遷を追い、朝廷全体の政務運営システムについてまとめることを志すものである。殊に中世朝廷の文書・人事行政の基幹を担った外記局、宮中の日常品の調達を担った宮内省管下の諸官司に注目し、その中世的体制の在り方・いわゆる「官司請負」の実態、成立時期などを明らかにした。またその基礎作業として各官司の補任状況の一覧化を進め、中世史研究の遂行に必須である史料類の収集・解読、紹介に努めた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,110,000	0	1,110,000
2008 年度	1,040,000	312,000	1,352,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,150,000	312,000	2,462,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本史

キーワード：日本 中世 朝廷 官司制度 政務運営システム

1. 研究開始当初の背景

中世の官司運営については、つとに「官司請負制」という概念が指摘され、定説となっている。しかし古代律令制の在り方からどのような変質を見せているのか、その具体的な

様相、朝廷の政務運営における役割はまだまだ十分に検討されていない。またいわゆる「請負」の内容としても、長官職の相伝、年預職の相伝、その他の携帯が存在し、これらを区別して検討する必要がある。

そもそも従来一括りにされてきた朝廷官司であるが、その性格は業務内容から大きく四つに大別できる。こうした様々な性格を有する官司の運営体制、その変遷の様子を比較し、相違点・共通点を明らかにすること、かつそれによって官司相互の関係あるいは幕府・在地との関係を有機的に見いだすことは有意義であると考えられる。

次に二点目として「情報」という視点がある。特に中世朝廷研究では、後代への情報の伝承・蓄積の在り方という視点から古記録学研究が進められている。本研究課題では、そうした視点に加えて、朝廷社会の内外での同時代的な情報の発信・中継にも留意する。特に組織構成を考える上で必須となる人事情報、費用賦課の様相に着目して検討を進めていきたい。

2. 研究の目的

現在の日本中世史研究において朝廷の研究は武家政権に比して立ち遅れている。しかしながら中世においても朝廷は国政の重要な一端を担っており、その政務運営システムは、律令制以来、その時代時代に即して様々な形で合理化が進められてきた。すなわち当該期の朝廷社会の構造変化、機能を明らかにすることは、中世社会の特質、また武家政権や在地の構造を考察する上でも重要であると考えられる。

そこで本研究課題は、古代から中世後期までを見通した広いスパンで、朝廷官司の構造およびその変遷を追い、朝廷全体の政務運営システムについてまとめることを志すものである。その検討に当たっては、特に下級官人層によって担われる個別官司の運営の構造と変化、それらの官司による朝廷儀式の中の業務分担、情報の流れなどに注目し、整

理していく。

3. 研究の方法

上述の視点から研究を進めるにあたり、関係史料の収集が必要である。中世の史料類、殊に朝廷関係の史料にはまだ未翻刻で十分な検討が加えられていないものも多い。慶應義塾大学所蔵の魚菜文庫、京都府立総合資料館の中原文書など下級官人の家に伝わった文書群も存在する。そこで第一に各地の史料所蔵機関を巡り、こうした史料の調査を行う。

次に各官司の運営実態を明らかにし、研究代表者がこれまで検討してきた諸官司も含めて比較検討する。中世朝廷官司は大きく1)実務官司(ジェネラリスト)、2)宮中の日常品を扱う官司(1)の兼任が多いと指摘されている)、3)特殊な技能を持つ技術官人、4)非「官司請負制的」官司の四つに大別できる。そこでこれらの変遷の様子を明らかにし、相違点・共通点を導き出していく。

公卿層に比べ中下級官人層の人的構成は不明である。そのため、まず収集した史料から各官司の構成員を抜き出し、中世を通した通時的な補任表を作成する。これによって運営体制の変化を可視的に検討することが可能となる。また当該期の諸官司が律令制本来とは変質した形で実際に負っていた役割、官司相互の関係を明らかにすることが可能となる。

同時に公事情報、とりわけ人事情報がどのように伝わっていたか、管理されていたかを探っていく。

4. 研究成果

本研究課題では、主に文書・人事行政を担った外記局を中心に、朝廷諸官司の運営体制に注目した。

まず平安後期から鎌倉期にかけての外記局の変遷を追った。政治的環境による家の盛衰、姻戚関係を軸とする人脈の拡張、位階による局内の階層秩序化、家の外部者を排除した利権確保などの動向を追跡し、一三世紀初頭に中世を貫通する安定的体制が成立したとの画期を指摘し、中世後期へのつながりを示した（「中世前期朝廷社会における身分秩序の形成」村井章介編『「人のつながり」の中世』山川出版社・八年一〇月。）

同時に、こうした外記局の構成員が兼任していることが多く、また米穀や水をはじめとする宮中の生活に直結する物品の調達を取り扱うという点で中世にも重要な機能を果たした諸官司（大炊寮・主水寮・掃部寮など）に注目した。これら官司の長官職の相伝が成立した時期、構成員（長官・目代・年預等）の立場・役割・業務分担の実態をそれぞれ検討し、その特質を見いだした。その成果は「中世朝廷諸寮司の運営体制 局務家相伝の諸寮司を通して」として口頭報告を行った（史料編纂所研究発表会・〇七年七月）。

また一四世紀初頭、室町幕府成立期の京都の都市支配と検非違使・造酒司等の下級官人による商業課税の在り方を検討した。その成果は歴史学研究会日本中世史部会において「下級官人からみた京都」として口頭報告を行った（〇九年三月）。

これらの検討に当たっては、そもそも各官司の人員構成状況、その称号などを明らかにする必要がある。そのため補任状況の一覧をまとめた補任表の作成を進めている。

この他、京都国立博物館、京都府立総合資料館、慶應義塾大学図書館所蔵魚菜文庫、国立公文書館、国立歴史民俗博物館、神宮文庫、天理大学附属天理図書館、奈良国立博物館、前田育徳会尊経閣文庫をはじめとする諸機関におもむき、中世史料の調査を行った。調

査をお許し頂いた諸機関には深謝する。

これらのうち必要なものについては、マイクロカメラでの撮影、焼き付け写真の購入等を実施し、収集史料の性格を確定し、検討・翻刻を進めている。このうち尊経閣文庫所蔵『外記日記（新抄）』については、鎌倉後期の公家社会の様相を示す貴重な史料であるが、その史料的性格についての検討はなされていなかった。そこで紙背文書を含め原本調査を行い、史料的性格について検討を行った。成果は『日本歴史』七三一号に掲載予定である。また国立歴史民俗博物館蔵「修明門院熊野御幸記」「後鳥羽院修明門院熊野御幸記」「頼資卿熊野詣記」は、鎌倉初期の藤原頼資の手になる記録であり、当時の貴族層の信仰、また熊野道中の様相を探る貴重な史料である。すでに『神道体系』に翻刻があるが、原本調査を行った結果、新しい知見を多々得ることができた。その成果は明月記研究会編・三井記念美術館共編『国宝熊野御幸記』に掲載された（八木書店・〇九年三月・分担執筆）。さらに鎌倉期の根本史料である『吾妻鏡』の研究、現代語訳の執筆・編集を進め、五味文彦・本郷和人編『現代語訳 吾妻鏡 第二 平氏滅亡』『現代語訳 吾妻鏡 第三 幕府と朝廷』『現代語訳 吾妻鏡 第四 奥州合戦』（吉川弘文館、いずれも二〇〇八）として刊行した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0件）

〔学会発表〕（計 1件）

遠藤珠紀「中世の家と朝廷社会（二〇〇七年度史学会大会中世史部会シンポジウム「人のつながりの中世」・〇七年十一月）

〔図書〕(計 5 件)

1) 遠藤珠紀「中世前期朝廷社会における身分秩序の形成」(村井章介編『「人のつながり」の中世』山川出版社・八年一〇月・五頁～三五頁)

2) 尾上陽介・遠藤珠紀・宮崎肇

「修明門院熊野御幸記」

「後鳥羽院修明門院熊野御幸記」

「頼資卿熊野詣記」

(いずれも明月記研究会編・三井記念美術館共編『国宝熊野御幸記』八木書店・〇九年三月・八七頁～一一四頁)

明月記研究会「熊野御幸記」

(明月記研究会編・三井記念美術館共編『国宝熊野御幸記』八木書店・〇九年三月・一頁～七九頁)

3) 分担執筆『現代語訳 吾妻鏡』二(吉川弘文館・〇八年三月・全二四四頁)

4) 分担執筆・編集『現代語訳 吾妻鏡』三(吉川弘文館・〇八年六月・全二三二頁)

5) 分担執筆・編集『現代語訳 吾妻鏡』四(吉川弘文館・〇八年九月・全二一四頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠藤珠紀(Endo Tamaki)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号: 10431800